

2021年度第1回 アンバサダーのつどい

参加者質問 & 講師回答

上島さんへの質問

質問	企業等の寄付について、企業側より交流目的の子ども食堂について、その存在などを知らず寄付をしている状況（いわゆるケア目的の子ども食堂に対して寄付しているつもりであった）があることに対する疑問を聞いたことがあります。そのあたりについて北九州市は説明を行っているのでしょうか？
回答	<p>企業様からご寄付をいただく際に子ども食堂の目的（交流 or ケア、など）の説明は特に行っておりませんが、ご寄付の際は「子ども食堂ネットワーク北九州」のHPや北九州市役所HPの子ども食堂のページを見てご連絡をいただく場合が多く、それらの中で「子ども食堂を地域の居場所として実施している」ことを紹介しておりますので、ある程度子ども食堂の目的をご理解していただいた上で寄付のご連絡をいただくことが多いのではないかと認識しております。</p> <p>また、企業様等向けに子ども食堂の説明会を行う際や、寄付をいただく前段として子ども食堂の現状についての説明を求められた際などには、積極的に子ども食堂の目的について説明しております。</p> <p>ただ、今回の「企業様の意図と異なる目的の子ども食堂に対して寄付をしている場合がある」というお話は私どもも大変参考となりましたので、今後、企業様から寄付のお話があった際の対応にぜひ活かしていきたいと考えております。</p>

上島さんへの質問②

質問	公設民営の子ども食堂を開設（モデル事業として実施）に至った理由について知りたいです。
回答	<p>当初、モデル事業として公設民営の子ども食堂を開設するに至った理由としましては、</p> <ul style="list-style-type: none">● 経済的に厳しい状況に置かれたひとり親家庭が増加傾向にあり、また、仕事等で保護者の帰宅が恒常的に遅くなる家庭も多いことから、子どもたちが夜間ひとりで過ごすことがなく、信頼できる大人が子どもたちに寄り添う伴走型の支援が必要であった。● そのため、ひとり親家庭などの子どもの孤食を防止し、幸福感や安心感を与える居場所を提供するため、食事の提供や学習支援など、親が帰宅するまでの間、子どもたちが多くの人と触れ合うことができる「子ども食堂」の取り組みを始めるに至った。● 民間を主体とした「子ども食堂」の活動を広げるために、モデル事業として公設民営の子ども食堂を開設し、子ども食堂運営の課題の洗い出しやノウハウの蓄積を行い、それらを民間の子ども食堂に広げていった。 （公設民営のモデル事業は終了し、現在は全て民間の子ども食堂として実施。） <p>などになります。</p>

上島さんへの質問③

質問	ボランティアの食事代はいくらでしょうか？ 私たちも子供は100円、親が300円です。一番の難関は場所の確保ですが、どのような工夫がありますか？
回答	<p>ボランティアの方の食事代については、子ども食堂によっても異なりますが、多くの子ども食堂では食事代を取られていないと思われます。ただ、ボランティアの方が任意で募金をされていたりなどはあるようです。</p> <p>子ども食堂の開催場所の確保について、北九州市では、会場として「市民センター」を利用する場合、本来、市民センターの利用には利用料や光熱水費が掛かりますが、子ども食堂を開催する場合には「市に準じた活動を行う団体」として利用料等の減免が受けられるようにしており、会場として市民センターを利用しやすい工夫をしております。</p> <p>市民センターは全て調理室が整備されており、きちんと衛生環境が整えられることなどからも、市民センターの会場利用を推奨しているところです。</p>

上島さんへの質問④

質問	昨年の緊急事態宣言下で学校が休校になっていた間の支援や長期休暇の間の取り組みなど、具体的な事例があればお聞きしたいです。
回答	昨年の緊急事態宣言下での学校休校の際には、「NPO法人フードバンク北九州ライフアゲイン」さんにご協力をいただき、子ども食堂の利用者や母子寡婦福祉会の会員、新型コロナウイルスの影響で収入が減った子育て世帯などを対象に、フードパントリー（食料支援）を実施しました。 また、フードパントリーの活動をさらに広げるため、子育て世帯への食料支援としてフードパントリー事業を行う団体に対して、運営費の補助（10割補助、上限30万円）を行いました。

上島さんへの質問⑤

質問	「オール北九州でボランティアの派遣」とはどのようにおこなわれているのでしょうか。
回答	子ども食堂のボランティアについては、子ども食堂運営者の知人や友人、また、地域住民などの方が中心になっているケースも多いですが、北九州市では、市内7つの大学や専門学校等と子ども食堂支援の連携協定を締結し、各学校の学生さんが様々な子ども食堂でボランティアに参加をしてくださっています。 また、子ども食堂ネットワーク北九州において、子ども食堂でのボランティアを希望する方と、ボランティアを必要とする子ども食堂のマッチングなども行っており、子ども食堂の関係者や近隣住民の方だけでなく、北九州市全体から必要なボランティアスタッフが参加する仕組みができております。

坂本さんへの質問①

質問	応援者とは、どのような人で、どのように応援しているのでしょうか。
回答	フレイフレー、と風を送ってくれる方は皆さん応援者ですね。いろいろな風があつて、対話を通じてヒントや発見、展望を思い描かせてくれる応援者もいれば、自分の時間や資源を提供してくださる応援者も多くはないですがいます。次世代のNPOスタッフのために、これからは後者を増やしていくのが、私自身の課題です。

坂本さんへの質問②

質問	NPO法人として有休スタッフ（職員）とボランティアの区別はどのようになさっているのでしょうか。若い方が一時期、収入を得るために活動から離れずに済むように働き続けられるという点で魅力を感じましたが、年齢にもよるのでしょうか。
回答	NPOと聞かれるとボランティア団体を想像される方も、まだ多いかもしれませんが、私どものような事業型のNPOの多くは、雇用した職員が支援活動を担っています。地域の母親たちから生まれたNPOですので、子育てしながら地域に働く場を求められているパートのお母さん職員が多いですが、独身者も10名弱おります。ボランティアは養成講座なども実施していますが、「できるときに、できることを」が原則ですので、活躍の機会やご協力いただきたい場面ができた際に、個別にお声がけしたり、広く募集したりしています。交通費程度のお礼が出る場合もあれば、無償の場合もあります。

坂本さんへの質問③

質問	お父さん応援プロジェクトについて。具体的にどんなことをされているのかが気になりました。
回答	2003年ごろから父親支援の研究を続けていて、海外の知見やそれらをもとに開発したプログラムを各地の支援者に提供しています。 詳しくは、新座子育てネットワークのホームページをご覧ください。

坂本さんへの質問④

質問	個別的な質問かもしれませんが、新座さんの中で坂本さんが感じておられるNPOとして坂本さんがもたれているスキルや経験をどのように組織内に共有化・後継育成をされているのか簡単で結構なのでご教示いただけませんかでしょうか。
回答	簡単に説明するのは難しい質問ですね。私のスキルや経験を、システムや仕組み、情報やノウハウにして、組織で活用されるようにしていくことは、私自身の取り組みとして可能なことで、数年来、強く意識していることです。後継育成の前に、後継したいと思う人のいる組織にするのが、目下の最大の課題です。

坂本さんへの質問⑤

質問	協力者の増やし方を教えていただきたいです。
回答	対話と発信だと思います。ICT活用のハードルが下がってきていますので、発信力は新しい技術の力をどんどん活用しましょう。対話、では、相手がわかる言葉で伝える、相手の立場になって、こちらの思いとの接点を見つける。そこからがスタートだと思うようにしています。私は協力者の数を増やすのは、あまり得意ではありませんが、太く深い協力者を見つけるのは得意です。前者は得意な人に任ずるようにしています。